

## マイクロスコープを使う DH が考えるべき3つの課題 Three issues for dental hygienists using microscopes to consider

森田 佳子  
辻本デンタルオフィス

### 抄録

近年マイクロスコープの普及率は上がっており複数台所有する医院も増え、歯科衛生士も日常的にマイクロスコープに携わることが多くなってきている。また、患者もホームページや SNS 等の媒体で歯科治療の情報を容易に知ることができるようになり、受診の理由で『マイクロスコープを使って精密な治療をしてもらいたいから』という事を耳にすることも多くなってきたと感じる。私自身もマイクロスコープを使用し歯科衛生士業務を行う際、拡大視野下で行えることによって今までのアプローチとは違う縁上、縁下歯石の除去が可能となり、プラークの付着状態や歯肉の炎症などを映像で記録し OHI を行うなど様々なメリットを感じている。

その反面、拡大して見える歯石やプラークばかりに注目してしまい口腔内の状態を全体的に観察出来ていない事も多くあった。

そんな自身の経験をもとに

- ・拡大視野だからこそ見るべき注意点
- ・歯周治療でのマイクロスコープの使い方
- ・マイクロ DH の本当の役割

以上の3点について具体的に解説しマイクロスコープのメリットを最大限に活かすための歯科衛生士の課題を発表させていただきたいと思う。

### 略歴

1996 年 久留米歯科衛生士専門学校卒業  
2000 年 大林医科歯科診療所勤務  
2007 年 かわかつ矯正歯科勤務  
2017 年 樋口歯科医院勤務  
2019 年 フリーランス  
同年より辻本デンタルオフィス勤務（非常勤）

### 所属団体・学会

日本顕微鏡歯科学会認定衛生士  
日本歯周病学会会員  
日本顎咬合学会会員